



焚火を囲み語り合う



樹齢1000年近い市房杉に触れる森林セラピー

# 幸せに、楽しく働く方法を探して 熊本型ワーケーション



爽やかな空気が身心ともにすっきりとさせてくれる。仕事への集中力も高まる



地域の人々と企業がつながるワークショップを開催し、新たなコミュニティを形成



昨年10月の「熊本県におけるワーケーションの推進に向けた連携協定」協定式(県庁)

熊本の大自然に触れ、焚火を囲んで語り合う。コロナ禍で希薄になっていた人と人とのつながりの楽しさと喜びを再確認でき、企業の新たな価値を創造する。そんな新しいスタイルの働き方&余暇の過ごし方として「ワーケーション」が今注目されている。

熊本では、2021年に熊本県、環境省九州地方環境事務所、一般社団法人 dialogue、そしてくまもとDMCの4者がワーケーションの推進に向け、連携協定を締結した。熊本独自のワーケーションモデルの構築を目指した取り組みが現在進められている。

21年10月〜22年1月の間に2回、東京に本社を置くIT企業アステリア(株)が参加し、水上村でワーケーションのトライアルプログラムが実施された。樹齢1000年の市房杉に囲まれた原生林のトレッキングコースを会社の仲間たちと歩き、

森林セラピーを通じて、自然と人間とのつながりを感じる。自然との対話から自分を見つめ直し、元気が湧き出るように、社員同士の対話から良質のコミュニケーションが生まれる。楽しみながら新たな事業の可能性を探り、ステップアップとビジネスに磨きをかける場として「ワーケーション」ならではのメリットが期待される。

「Well-being」が湧き出る原生林へ

市房山の小川のせせらぎに耳を傾けながら原生林に囲まれた登山道をゆつくり歩く。時折木陰で休み、大きな深呼吸をしてみる。それだけで、心が落ち着き、マインドフルネスが高まることは間違いない。

都会のオフィスとは異なる環境に身を置くことで、自然の中だからこそ高まる人間本来の能力が導かれ、



ワーケーションに関するお問い合わせ  
くまもとDMC  
Tel. 096-276-6655  
info@k-dmc.co.jp



スマートフォンや時計をはずし、市房山の原生林の中へ

仕事と余暇の両面で、集中力が生き返ったように感じられる。

くまもとDMCでは、「Well-being(ウェル・ビーイング)幸福」の向上を意識し、「SPIRE(スパイアー)」の視点でプログラムの構築に取り組んでいる。くまもとDMCの磯田淳社長は「一過性に終わらず、リピーターになってもらうことが目標」と熊本型ワーケーション構築への思いを話す。